

みゅーじあむ・船橋

平成26年3月



第2号

博物館ニュース	[2]	船橋の明治・大正・昭和 行田の無線塔	[6]
郷土の歴史 習志野	[3]	学芸員だより	
ふなばしめぐり 明治天皇駐蹕之处の碑	[3]	「縄文土器のふしぎ」を開催して	[7]
訪ねてみよう！ ご近所の遺跡 金杉城跡	[4-5]	インフォメーション	[8]

博物館ニュース

郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の企画展やいろいろな事業をご紹介します。

郷土資料館

「くらしの道具 ― 道具が語るくらしの歴史 (17) ―」 ～平成 26 年 4 月 13 日(日)まで

当館の冬の事業『くらしの道具』を、現在開催中です。食事や調理の道具、住まいの道具、暖房の道具、農業・漁業の道具、あかりの道具などを展示しています。時代は主に、明治時代から昭和 40 年代ぐらいのものが多く、懐かしいものがたくさんあります。

この時期は、船橋市内の小学校 3 年生が「昔の道具とくらし」について勉強します。郷土資料館では、これに合わせて、昔の道具の展示を行います。学校の団体見学もあり、多くの子供たちに見てもらえる機会となっています。また、この見学に合わせてボランティアの方々から、道具の使い方や体験談など、いろいろなお話を聞くことができます。



第 3 回 海神中学校・飛ノ台史跡公園博物館 合同展 「日本の美を今に活かした作品展」

～平成 26 年 4 月 8 日(火)まで

海神中学校と当館は、美術科の博学連携授業を行っています。現在、1 階ギャラリーでは、海神中生徒が縄文土器の鑑賞や拓本から発展させて制作した焼き物の器・型染めの布・アクリル箱のボックスアートの作品を展示しています。

縄文時代人と現代の中学生の心のコラボレーションで作られた作品です。縄文土器のどこからこのような作品が生まれたのでしょうか？ 常設の縄文土器も併せてご覧ください。



飛ノ台史跡公園博物館・海神公民館 共催事業 「考古学講座」 開催いたしました！

毎年恒例、当館の冬の事業「考古学講座」を、今年も 1 月 18 日・25 日、2 月 2 日の 3 回にわたり、海神公民館との共催で開催いたしました。今年度は、実際に発掘調査や資料整理に従事されている講師の最新の千葉県内・船橋市内の発掘調査の成果や、火山灰に埋もれて出土し、ニュースでも放送された群馬県金井東裏遺跡の甲を着た古墳人のお話など、いろいろなテーマを取り上げました。受講された皆様から「毎年楽しみにしていますよ」とのご声援をいただき、来年度も考古学や地域史への興味を深めていただけるような講座を企画したいと考えております。



郷土の歴史

習志野

船橋の中央の台地（二和、三咲、高根台、西習志野、習志野台等）は、かつて広大な馬の放牧地があり、江戸後期には小金五牧の 1 つである下野牧といわれていました。

下総の地は、遠く古代から馬の産地として知られ、何ヶ所かに馬の放牧地であったことの記録が断片的に残っています。江戸時代になると幕府直轄の馬牧となりました。

明治時代になると、新政府による開墾政策で、一部は畑作農村となりましたが、その他は軍用地となりました。

明治 6 年（1873）4 月、大規模な演習が行われ、この演習で明治天皇は近衛兵の演習を統監されました。演習後、明治天皇の勅諭をもって「習志野ノ原」と命名され陸軍の演習場となりました。

大正 5 年（1916）、習志野原の一画に陸軍騎兵実

施学校（翌年に騎兵学校に改名）が東京駒場から移転しました。天皇陛下が閲兵する御馬見所も移築されました。御馬見所は現在、陸上自衛隊習志野駐屯地内の「空挺館」という名称で、騎兵学校や空挺部隊の歴史を展示する資料館となっています。

昭和 20 年（1945）、終戦の直後に習志野原は開拓して農地にすることになりました。広大な荒地を切り開く、開拓者の苦労は大変なものでした。

昭和天皇は、戦後、全国を巡幸し、昭和 21 年（1946）には習志野原の開拓地をご訪問になり、開拓者を激励しました。

農地開発営団習志野農場が設立され、当初は旧軍関係者を中心とした共同開拓が計画されていましたが、一般応募者の要望から個人営農に転換されました。昭和 40 年代以降都市化が進み、かつての習志野原は団地と新興住宅地となっています。

ふなばしめぐり

めいじてんのうちゅうひつのところ

明治天皇駐蹕之处の碑

薬円台 4 丁目 25 番 19 号（船橋市郷土資料館）

明治天皇駐蹕之处の碑は、明治天皇の業績を記念して大正 6 年（1917）に陸軍省が建てました。元の位置は自衛隊正門前を習志野台方面に入った所がありました。現在は郷土資料館の蒸気機関車の横にあります。（薬円台公園内）

明治 6 年、明治天皇が初めて千葉県に行幸し、習志野原で近衛兵の演習が行われました。碑の元の位置は天皇の幕舎が作られた場所とされています。演習は 4 月 29 日から 5 月 1 日に行われ、その後皇居において 5 月 13 日明治天皇宸筆をもって習志野原の地名が命名されたと伝えられています。これを記念して船橋市指定史跡「習志野地名発祥の地 附 明治天皇駐蹕之处の碑」が指定されています。



— 「兵どもが夢のあと」 市内に残る城跡 —

金杉城跡

「城」というとどんなイメージを持ちますか？
例えば、姫路城や大阪城のように、空高くそびえる天守閣、整然と高く積み上げられた石垣、水をたたえた堀などをイメージするのではないのでしょうか。このような城の多くは安土・桃山時代から江戸時代に建築された城であって、これ以前の戦国時代につくられた城はかなり様相が異なっています。

戦国時代は全国で武士たちが武力によって争っている世の中です。武士たちは領地を増やし、その領地を守るために、戦闘拠点として適切な自然の地形を選定し、土地を削り、堀を切り、土塁を盛り、要害化したシンプルな城が多く築城されました。

船橋市内における戦国時代の城跡は、十数城を確認できますが、大規模な発掘調査は行われていません。そして、多くの城跡は都市開発事業により一部或いは大部分が削り取られるなど、ほとんどが原形をとどめていません。また、未整備のところも多く、城跡を訪問する場合は藪をかき分けながら入ることになります。しかし、わずかに残る土塁や空堀、櫓台の跡などの遺構を目のあたりにした時は、戦国時代の人々の息吹が聞こえてくるようで大変な感動を与えてくれます。

市内に残る城跡の中で、城跡の一部ですが発掘調査を行った「戦国時代の金杉城跡」を紹介します。

城跡は、金杉2丁目に所在し、金杉十字路より西300 mの舌状台地の先端部に遺構が認められます。以前は東西約47 m、南北約43 m、幅約6 mの土塁で囲われた方形の郭でした。ここが城の主郭と思われます。図2は、金杉城跡の主郭部のスケッチです。現在認められる遺構及び「発掘調査報告書」(注1)を基にして作成したものです。図2では、畑地の周囲に土塁、土塁上に出柵形や櫓台、空堀、腰郭、崖下に井戸などが見られます。畑地は、明治30年ころまでは所有者の住宅地でした。



図1 金杉城跡位置図
国土地理院 2万5千分の1地形図 船橋を一部改変

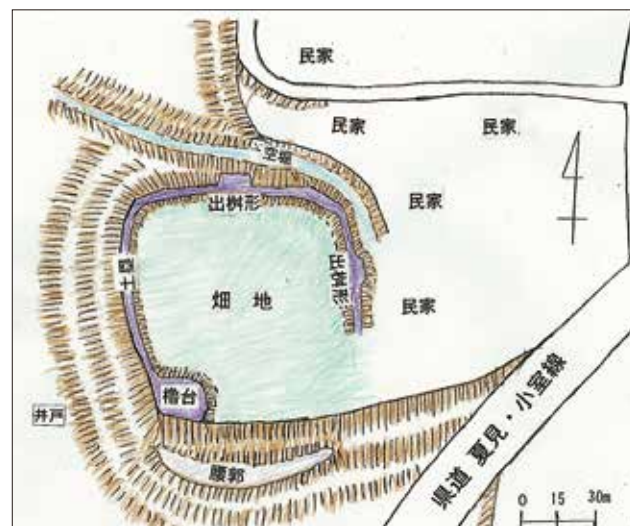


図2 「金杉城跡」スケッチ

写真1は西側土塁上から北側土塁を写したものです。高さ約2～3 mの立派な土塁が続いています。西側に残る土塁の外側は、約15 mの急崖となり低



写真1 西側から北側に続く土塁



写真2 北側の土塁

地からの敵の攻撃を阻止する天然の要害となっています。

北側は写真2の土塁の他、土塁の外側に空堀の一部、土塁中央部には外側に向けて幅約4 m位の凸形の張り出し(出柵形)が残っています。出柵形は、前面に侵入した敵に対して180度の角度にわたって弓矢などによる掃射が可能です。また、空堀を通して侵入してきた敵に対して側面から弓矢を射掛ける構えになっていました。空堀の外側にも土塁が築かれ、二重土塁になっていました。



写真3 腰郭跡

東側は、民家により遺構を見ることはできませんが、平成15年の発掘調査により北側と同規模の出柵形や空堀、その外側にも土塁が築かれて二重土塁であった痕跡が見られました。

南側には、南西隅の櫓台から延びる土塁がありましたが現在は取り払われています。その外側の斜面の下(写真3)は、東西に延びる腰郭で防備を強化していましたが、大半が中心郭を畑地にするときに盛土されたようです。



写真4 南西隅の櫓台

城跡の遺構の中で最も目立っているのが、写真4の南西隅に残る高さ約2 m、一辺約6 mの方形の土塁です。まるで近世城郭の天守台を思わせる立派な土塁です。おそらく櫓台として築かれたものと思われます。

この土塁の上に櫓を建て遠望の利くようにして、普段は物見櫓として、戦いとなれば戦闘指揮所として、西方直下にある井戸の見張りなどの役割を果たしていたと思われます。現在の台上には、八幡宮・稲荷大明神・弁財天が祀られています。

金杉城の築城時期は不明ですが、おそらく以前からあった方形居館を戦国時代に複数の郭や土塁・空堀を構築して城域を拡張したものと思われます。しかし、現況が示すように宅地や畑地、道路建設などによりかつての金杉城全体の構造が分からなくなっています。

城主は不明ですが、ここより南に位置する高根城主が松戸の小金城主の高城氏一族であること、出柵形の構えが見られることなど小金城跡と共通する遺構があることから、金杉城主は高城氏系統の武将であったと思われます。

なお、本城跡は私有地ですので土地所有者に迷惑をかけることがないようモラルを守り訪問してください。

《主な参考文献》

・『船橋市史 原始・古代・中世編』平成3年 船橋市
(注1)『平成15年度船橋市内遺跡発掘調査報告書』
平成16年 船橋市教育委員会



ぎょう だ む せん とう 行 田 の 無 線 塔

船橋市行田に、地図や上空から見ると円形をした地域があります。そこには、船橋近辺のランドマークであった、通称「行田の無線塔」が建っていました。

明治 37 ～ 38 年（1904 ～ 05）の日露戦争後、日本海軍の艦船の行動範囲が拡大し、大規模な無線電信施設が必要となりました。東京近郊への設置が決まり、3ヶ所の候補地の中から船橋近郊の塚田村行田が選ばれ、無線電信施設が造られることとなります。送信機は高い技術を誇るドイツのテレフンケン社製が採用され、大正 2 年（1913）に工事が開始されます。しかし、大正 3 年（1914）、第一次世界大戦が勃発し、日本がドイツに宣戦布告すると、建設を指導していたドイツ人技師が帰国してしまいます。残された技術者の苦勞の末、大正 4 年（1915）、主塔 1 基（約 200 m）、副塔 18 基（約 60 m）の鉄塔と送信所の建物を要する「船橋海軍無線電信所」（のちに名称改称）が完成します。副塔は中央の主塔から等距離に配置されたため、副塔外側に設けられた道路は直径約 800 m の円形となりました。（右下地図参照）

完成翌年には逓信省の「船橋無線電信局」が併設され、軍事利用だけでなく、海外との無線電信業務も行われます。日米間の無線電信の開通を祝して、祝電がウイルソン米大統領と大正天皇との間で交わされました。



昭和 10 ～ 20 年代撮影 船橋駅付近から見た無線塔

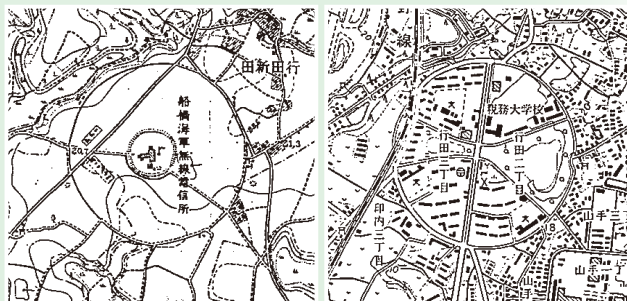
昭和 10 年代には、送信施設の大改修があり、鉄塔も半自立型から東京タワーのような自立型の 6 基（約 182 m）を中心とした鉄塔に建て替えられます。真珠湾攻撃実行の暗号電文「ニイタカヤマノボレ 1208」を始め、洋上で活動する艦船に向け、多く電信が発信されました。

戦後、米軍の管理下に置かれたが、昭和 41 年（1966）、日本に返還されます。しかし、通信施設として役割を終えていたこともあり、解体が決定し、昭和 46 年（1971）に解体が行われました。

跡地は、団地・公園・学校などになっており、円形の道路と昭和 57 年（1982）に建立された「船橋無線塔記念碑」がこの地に大規模な無線電信施設があったことを現在に伝えています。



昭和 36 年（1961）撮影航空写真



大正 10 年（1921）
2 万 5 千分の 1 行田付近

平成 5 年（1993）
2 万 5 千分の 1 行田付近

《参考文献》 順不同

- ・『絵はがき一写真に残された明治～大正～昭和一』平成 17 年 船橋市郷土資料館発行
- ・『行田無線塔史第 17 号』平成 21 年 船橋地名研究会
- ・『ふなばし物語ー太古から現代までー』平成 6 年 船橋市広報課

学芸員だよりその2

平成25年度飛ノ台史跡公園博物館企画展 「縄文土器のふしぎ」を開催して

平成 25 年 11 月 2 日(土)から 12 月 22 日(土)までの 41 日間、企画展「縄文土器のふしぎ」を開催いたしました。このテーマは、当館に来館されるお客様から寄せられる質問に、同じ内容が多いことからヒントを得て思いつきました。お客様からいただくことが多い質問としては、なぜ土器に縄文やいろいろな文様をつけるのか、なぜ底が尖った土器があるのか、誰が作ったのか、などがあげられます。

考古学研究者は 1 点 1 点の土器を詳細に観察し、その形態や模様の特徴、制作技法、分布圏などから先史社会を復元するために様々な推論を組み立てていきます。一方、一般の見学者が博物館の展示ケースのガラス越しに縄文土器を見ても、距離が離れているので解説文を読んでもよくわからないという方もいらっしゃいます。そこで、お客様になるべく近くであらゆる方向から土器を見ていただけるような展示の工夫をし、ゆっくりと楽しみながら土器を眺めていただければ、ご自身の抱いた疑問を解決する糸口となり、縄文土器の素晴らしさも知っていただけるのではないかと考えました。もちろん展示する資料の保全は大切です。こうして、寄せられた質問の中から 7 つの「ふしぎ」をテーマに決め、船橋市内をはじめ、千葉県や山梨県の縄文土器、およそ 60 点を展示しました。

「ふしぎ」展の来場者の中に、記憶に残るお客様がいらっしゃいました。企画展初日、朝から博物館がオープンするのを史跡公園でお待ちになっている女性がおり、開館するやいなや、1 階ギャラリーに滑り込み、「すごい！」「おもしろい！」と歓声をあげながら、展示中の土器をあらゆる角度から眺めて大喜びです。そして「こういうものが見られてよかった！」とおっしゃる。伺ったところ、岐阜県から仕事の用事で千葉県に来ていて、フェイスブックの「縄文繋がり」の友人から当館の企画展のことを聞いて来られたそうです。そして、このように彼女が縄文にハマったのは、平成 24 年に信楽の MIHO MUSEUM（ミホミュージアム）で開催された『土偶・コスモス』展を見学してからとのこと。この展覧会は、考古学者が企画に加わり、国宝を初めとする日本各地の土偶の名品を一堂に会し、西日本では初めての大きな土偶展でした。同展

には、当館のヴァイオリン形土偶（小室の土偶）も貸出し展示されていたため、小さな土偶の晴れ姿を見に、私も遙々出かけました。MIHO MUSEUM の噂に違わぬ内容の濃い展示はさすがに圧巻でしたが、この企画展によって「縄文」に開眼した方がいて、お住まいの地域から遠く離れた博物館までお越しになるほどの縄文ファンとなり、さらに彼女の周りには「縄文繋がり」の友人が大勢いらっしゃるということの方が私にとっては驚きでした。

展 示 風 景

会期中、3 回のギャラリートークには多くのお客様が参加され、熱心に私の解説を聞いて下さいました。丁寧に細い沈線文が幾重にも描かれた注口土器や精緻に立体的な彫刻のような模様が付けられた山梨県の人面付き土器には、「本当に何千年も前の人が作ったものですか！」と驚嘆の声があがりました。多くの一般の方の持たれている縄文人のイメージは、どこでそうってしまったのかかわかりませんが、「文明とはほど遠い貧しい生活を送っている原始人」というものです。ところが縄文土器をご自身の目でじっくり見ると、そんなイメージは一瞬にして吹き飛んでしまうのです。

3.11 の大震災以降、「縄文」はブームとなっています。出版社から刊行される一般書籍にも「縄文特集号」が引きを切りません。歴史的な地震の後、私たちが暮らす日本列島の土地の成り立ちや、今までに体験した自然災害、その中で人々がどのように生き延びてきたかということ、否が応でも考えなければならなくなったからではないでしょうか。日本列島で採集狩猟の生活を 1 万年以上も続けた縄文人たち。彼らの生活が 1 万年も続いたのは、自然と共生共存し、持続可能な社会を形成する知恵があったからです。そして彼らから学ぶべきことがたくさんあることに現代人は気づいたのです。

お客様の質問から企画した展覧会ですが、私が当初考えていた以上に、縄文土器を観察することで、多くのお客様は縄文時代への様々な興味や知的好奇心を深めて下さったように思います。今後も縄文を現代に活かせる企画を考えていきたいと思います。（K.K）



中期の深鉢



ギャラリートーク

郷土資料館

★小企画展「くらしの道具 ― 道具が語るくらしの歴史(17) ―」 開催中

平成26年4月13日(日)まで

★小企画展「写真と地図でみる船橋」 平成26年4月26日(土)～7月6日(日)

☆船橋の歴史散歩5 5月開催予定です。日程・内容が決まり次第、市広報でお知らせいたします。

☆地域史講座 6月開催予定です。日程・内容が決まり次第、市広報でお知らせいたします。

地域研究資料6『津田沼の今昔 ― 写真で見る街の遷り変わり ―』

津田沼駅周辺の変遷を写真で紹介します。4月1日より、郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館、船橋市役所行政資料室で販売を開始いたします。
一部540円(税込)です。



協力 船橋市華道連盟

飛ノ台史跡公園博物館

☆バスで訪ねる博物館見学会 平成26年5月24日(土)

茨城県上高津貝塚・筑波宇宙センターを予定しています。

詳細は、5月1日号の市広報でお知らせいたします。

★第3回船橋市立海神中学校・飛ノ台史跡公園博物館合同展

「日本の美を今に活かした作品展」

開催中 平成26年4月8日(火)まで

表紙の写真から ～史跡公園の春 神保君雄氏撮影～

史跡公園には、いろいろな植物が自生しています。春先には、フキノトウやツクシ、タンポポ、スマレ、オオイヌノフグリなどがかわいい姿を見せます。飛ノ台史跡公園博物館も開館から14年が過ぎ、開館当初細かった桜の木も次第に太く大きくなり、毎年、美しい花を咲かせます。四季折々に、史跡公園の散策を楽しまれてはいかがでしょうか。

郷土資料館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

入館料 無料

住所 船橋市薬台4-25-19

電話 047-465-9680

FAX 047-467-1399

Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成電鉄 習志野駅下車 徒歩10分

JR津田沼駅北口から

習志野新京成バス「高津団地中央」「北習志野駅」「八千代緑が丘駅」行き、または、ちばレインボーバス「船尾車庫」「JR木下駅」行き

「郷土資料館」下車徒歩1分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

入館料 一般100円(団体20名以上70円)
児童生徒50円(団体20名以上30円)
市内在住小中学生 無料

住所 船橋市海神4-27-2

電話 047-495-1325

FAX 047-435-7450

Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン(野田線)

新船橋駅下車 徒歩8分

京成線 海神駅下車 徒歩15分

東葉高速鉄道 東海神駅下車 徒歩12分

新京成バス

JR船橋駅北口から建鉄循環

「海神中学校」下車 徒歩1分



ご利用案内・交通案内

休館日カレンダー

4月							5月							6月							7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土							
		1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5					1	2		1	2	3	4	5	6	
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
																												31													
	は休館日																																								

■は休館日